



第14回三県人会合同納涼ビアパーティ

道頓堀ホテル 2025年7月19日(土)

第14回三県人会合同納涼ビアパーティは、7月19日(土)大阪なんばの『道頓堀ホテル』に於いて、総勢58名、関西岩手県人会からは18名の参加で開催されました。



左から池田会長、杉田会長、加藤会長

今年は近畿青森県人会が幹事を務め、近畿青森県人会 古川マツエ副会長の司会で12時開会となりました。

近畿青森県人会 杉田清和会長、近畿秋田県人会 加藤俊勝会長、関西岩手県人会 池田希和夫会長がそろって登壇。青森県人会 杉田会長が挨拶の中で、大阪・関西万博で行われた「東北絆祭り」についてお話をされました。続いて、北東北三県合同事務所の菊池秀光所長の乾杯で宴がスタートし、ビールジョッキを片手に談笑する様子があちこちに見られました。



菊池所長

余興は青森から、黒滝忠志さんの軽快なピアノ演奏で幕が開け、寺崎達也さんの三味線演奏、そして中川トシエさんの歌が加わっての津軽民謡の数々が披露されました。

秋田からは、梅若晶子さんが三味線を持って登壇し、北東北三県の民謡で盛り上げました。そして、先ほどの黒滝さんのピアノと若梅さんの三味線によるコラボでオリジナル曲『天響』が披露されました。



「じゃわめぎ会」のお囃子で跳ねるハネト

余興のトリは、青森のお囃子の会『じゃわめぎ会』が勤めました。弘前ねぶた、五所川原立佞武多、青森ねぶたなどのお囃子演奏と、即興のハネトも加わり、会場の盛り上がりは最高潮に達しました。岩手からは余興へのエントリーはありませんでしたでしたが、今年入会の高松正廣さんがカラオケを披露されました。



熱唱する高松さん

最後に県人会ごとに写真を撮影し、中締めとなりました。中締めは、次回幹事県の近畿秋田県人会から加藤会長が登壇し、来年の開催と再会を宣言しました。

北東北の三県は、歴史、気象、産業、人口などがほぼ同じような状況にあり、県民性などにも似通うものがあると実感しています。来年も多くの方に参加いただき、北東北の『良さ』を感じていただきたいと思います。(事務局K)



参加者全員笑顔でバチリ！



掛け初め式典参加者 記念撮影

毎年7月の末日に風鈴の飾り付けを行い、8月1日に法要と風鈴掛け初め式典を執り行って後、8月末まで清水寺回廊に風鈴を飾ってきましたが、8月に台風が来襲し、風鈴の取り外しと再度取付けが発生してしまいました。清水寺から、台風を避けるため風鈴の飾り付けを1か月前倒して実施してはどうかとの提案がありました。愛でる会では関係方面に1か月前倒して実施する旨を説明し、協力を得られたため6月末日に風鈴飾り付け・7月1日に法要と掛け初め式典・7月末日に風鈴片付けをする事となりました。

飾り付けの6月30日(月)は最高気温が35℃を超え、猛暑日となりました。午前9時過ぎに清水寺の寺務所に集合し、風鈴の飾り付け作業を行いました。今回より清水寺とのご縁ということで、京都産業大学京都文化学科小林一彦教授、同大学の社会連携推進機構の高橋 誠課長と担当者1名、小林ゼミの学生13名の参加もあり、我々県人会関係者や愛でる会会員など含め総勢36名で汗をかきながらもワイワイと賑やかに楽しく飾り付けをしました。翌日の法要と掛け初め式典にも小林教授と推進機構の高橋課長と学生3名の参加がありました。



飾り付けに参加した京都産業大学の学生たち



本堂内陣での法要

7月1日(火)午前10時から清水寺本堂内陣で東日本大震災の法要を行った後、風鈴を飾ってある回廊に移動し、清水寺森 清範貫主、京都府 西脇隆俊知事、岩手県大阪事務所 菊池秀光所長、京都市教育委員会 酒崎伸明指導部部長、京都市立開晴小中学校 野村昌孝校長、京都市立音羽小学校 岡 博士校長、南部風鈴を愛でる会 佐々木 亨会長、同会前会長の子女 及川ハナ子の8名が風鈴を掛けました。掛け初め式典の司会は昨年と同様に岩手県大阪事務所の武藤次長が務めました。祝辞や学校長の挨拶の後、参加者全員での記念撮影で式典は終了しました。

風鈴は7月31日(木)午後2時半から京産大のゼミ生も加わり片付けを行いました。風鈴の短冊にはいまだに続くウクライナやガザ地区の戦禍の早期終了を願うと書かれたものが多く見られました。願い事が書かれた短冊は、9月27日(土)清水寺南苑のお焚き上げで天に届けられました。(事務局N)



掛け初め式の風鈴



掛け初め式典(司会は岩手県大阪事務所の武藤次長)



前日の雨が上がり、曇りで過ごしやすい気温となった。参加者は法要に55名(会員36名)講演会に50名(会員31名)で昨年より多かった。

法要は遠藤泰久幹事の司会で、参加者代表の深田 稔の挨拶で始まり、その後に導師横山照泰大僧正、出仕5名の僧侶による読経が厳かに響いた。読経が続く中、途中より参加者全員が焼香した。年々産地の気温上昇で花が早く咲き、今年は岩手の「りんどうの花」は送られないはずだったが、何故か届いていた。用意した「菊花」は「りんどう」と共に講演会終了後、聴講者に持ち帰ってもらった。



横山大僧正による読経

供養の読経が終了後、北水会(岩手大学 農学部+獣医学部同窓会)近畿支部会員7名による自啓寮々歌「天翔けり行く」の合唱があった。詩朗読は星野澄香さん(比叡山高校1年)で、しっかりと落ち着いた声で「雨ニモマケズ」を見事に朗読し拍手を浴びた。彼女は延暦寺参拝部長の星野最有師のお嬢様とのこと、お母様が付き添いで来られた。



北水会会員による寮歌合唱(左端は法要司会の遠藤氏)

今年も賢治さんおよび清六様の宮沢ご兄弟の他、有縁物故者として、会員の田中武氏(東近江市、板画家享年80歳)、中村周平氏(賢治後輩、享年91歳)、及川静衛氏(本会幹事、元京都岩手県人会&南部風鈴を愛でる会の会長享年91歳)、15回忌を迎える東日本大震災の犠牲者の供養をお願いした。田中家にはご遺族代理で隣町の近江八幡市在住の小西朋子氏、中村家は長女ご夫妻の石神真木子・喜一氏、及川家は長女の及川はな子氏がそれぞれ献花・ご焼香した。15回忌を迎える東日本大震災犠牲者のご遺族代理焼香は岩手県大阪事務所次長の武藤健一氏が務め、会員とともに故人を偲んだ。

導師の横山照泰大僧正は法話の中で、賢治さんは「我々を取り巻く環境、そこに生息する生き物」を区分せず、我々の仲間ととらえていた。賢治さんの精神性に倣い自然破壊を止めるべき、と述べた。

午後の記念講演会は平松光三幹事の司会の下に、信時哲郎先生(甲南女子大学教授)が



横山照泰大僧正

「宮沢賢治と中尊寺「中尊寺(二)文語詩未定稿を中心に」の演題で講演され、「文語詩は死の直前に書かれた、難解で人気がないが、面白みも発見できる」と述べ、質問が多くあり好評であった。

小野 誠第3代会長の2008年7月31日ご逝去を受けて、足掛け18年間、第4代会長を務めた深田 稔は、2025年末をもって退任し、第5代会長には長澤 直副会長が昇格します。延暦寺様および会員のご協力に深く感謝するとともに、次期会長にも変わらぬご指導ご支援のほどお願いいたします。

関西宮沢賢治の会会長 深田 稔



朗読をする星野さん



講演司会の平松氏



信時哲郎甲南女子大学教授



「阿弋流為・母禮の碑」法要 記念撮影

清水寺に参拝・観光に来た人々が、碑の前に約80名が列席する様子やお供え物を皆興味ぶかそうに見ていた。篠笛(森 美和子氏)の音色があたりに響き、立ち止まり聞き入る人、写真を撮る人、何が起きているのかといぶかり、列席者に聞いている外国人、説明している関係者、説明書を渡している関係者等々。秋晴れのもと、11月8日第32回阿弋流為・母禮の法要は執り行われた。清水寺によると現在参拝者の8割は外国人とのこと。さもありなん、日本人は限られているように見受けられた。



森 清範貫主

厳かに森 清範貫主および清水寺僧侶の読経が始まり、静寂のなか、数珠の音、野鳥の声、通り過ぎる人々の足音等が聞こえる。参列者は焼香へと続き、阿弋流為および母禮たちが活躍した1200年前を思い、その雰囲気にいざなわれる。

法要の後、清水寺円通殿に於いて法話と講演が行われた。森 清範貫主による法話では、小学生から高校生たちが修学旅行で清水寺に参拝した折り、お話しの機会がある毎に寺の冊子を渡し、その最後の頁に貫主直筆の漢字一字を記し渡しているなど、いろいろなエピソードが紹介された。その中に、ある小学生の代表に渡した冊子に“謝”と記し、その意味について問われた。“謝”は、言・身・寸から成り、“言”は口に出していうこと、“身”は頭を下げ体で表すこと、“寸”は心から話すことを説明し、家に帰ったら忘れずにご両親にきちんと口にだしてありがとうと言うように伝えたとのこと。誰にでもわかる平易な言葉で、真理を子供たちに伝えていたと感じた。その言葉を聞いた子供たちは、清水寺とともに高僧から説明のあった“謝”の言葉を記憶するに違いない。

講演は京都産業大学小林一彦教授から、興味深いお話を伺った。阿弋流為および母禮に関する歴史資料は限られていると説明しながら、万葉集の編者と伝えられる大伴家持は、蝦夷(えみし)征討の責任者として東北に赴任したと。しかしその万葉集には東北の歌はなく、古今集和歌集になり初めて東歌の中に東北のことが謡われているとのこと。万葉集が編纂された奈良時

代には、未だ東北には朝廷の勢力が及んでいなかったが、平安時代になり朝廷の勢力が東北まで及んだと歌から分かる等、学術的ながら分かりやすく興味を引く講演であった。まさに阿弋流為・母禮が活躍した時代を万葉集は映しているのであると興味を惹かれた。

懇親会は、奥州市、アテルイを顕彰する会、秋田県人会、千葉県人会、歴史愛好者等幅広い参加者が和気あいあいと交流し、「アテルイを顕彰する会」から差し入れられた郷土の酒が会を盛り上げた。ひらかた肝高(きむたか)倶楽部が、演舞「阿弋流為」全公演約2時間の中から阿弋流為が活躍する15分程を抜粋して演じ、更に会を盛り上げた。当団体は青少年育成を目的として、枚方市在住の小中高生がダンス・芝居等に取り組み、自己表現力を養う活動の由。現代の青少年が千キロ以上も離れた蝦夷と呼ばれた地域と枚方との関係や、当時の若き北天の雄阿弋流為・母禮を演じ、青年の苦悩するありさまを表現するのは、観る者に感慨を呼び起こす。夢は阿弋流為の活躍した奥州の地で演じることと聞く。森 清範貫主は演舞の後、演じた子供たちと交流したと聞き、必ずや彼らの将来に良き影響を与えたものと思う。

限られた時間ではあったが、参列された方々のところに響く法要、懇親会であったことと信じ、来年も同様の時期に開催する予定である。

皆様の更なるご活躍を祈念し、再会を期したい。

関西アテルイ・モレの会 事務局長 鈴木 修



小林一彦教授



挨拶をする佐藤会長



演舞前に挨拶をする肝高倶楽部

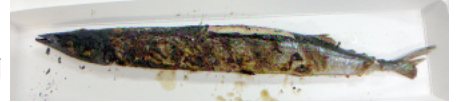


開会式に池田会長が出席(左から3人目)

10月26日の日曜日、今回で12回目となる「泉大津さんま祭り」が開催されました。祭りを主催する「復幸の架け橋実行実行委員会」の代表である石原成昭氏は、今年から関西岩手県人会の会員です。祭りのパンフレットの後援団体の中に関西岩手県人會も記載されています。

今回も大船渡から1300尾のさんまとさんま焼き師が

やって来て、炭火でさんまを焼いていました。さんまチケットは10時から販売開始ですが、1時間前からチケットを求める人々が並び始め、販売開始時には長蛇の列となりました。



炭焼きさんま以外にも「さんまのつみれ汁」や「三陸海の幸コロケ」(ホタテ入り、しらす入り等々)の販売、その他飲食・雑貨・各種展示など48のブースが出店していました。

朝からどんよりした空模様で、お昼には小雨も降りましたが約6,000人の来客だったそうです。(事務局N)



販売前からさんまチケットを求める長蛇の列

★★★ 郷土校・チーム等の活躍 ★★★

高校野球 ～夏の甲子園～

花巻東高校2回戦で惜しくも敗退

全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園)は、花巻東高校が岩手県大会で3戦コールド勝ちするなど強力打線で岩手大会初の3連覇を果たし、甲子園の切符を手に入れました。



中村耕太郎主将に激励金を渡す

8月5日(火)に、ホテルマイステイズ新大阪にて池田会長、平野副会長が出席して、激励会を開催しました。

1回戦は、8月8日(金)朝8時試合開始。対戦相手は選抜大会準優勝の和歌山県代表智辯和歌山高校でした。

1回表智辯和歌山の攻撃では、花巻東の先発左腕萬谷投手の立ち上がりを捉えられて1点を先制されましたが、その裏、花巻東も智辯和歌山の先発渡邊投手を攻めて2年生の赤間選手の犠牲フライなどで2点を取り逆転しました。その後は、花巻東の先発萬谷投手の切れのあるスライダーが冴え、156球の力投で智辯和歌山打線に追加点を許さず4対1で快勝しました。

学校名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
智辯和歌山 (和歌山)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
花巻東 (岩手)	2	0	0	0	1	1	0	0	X	4



ガンバレ花巻東!

力投する萬谷投手

2回戦は、8月15日(金)強力打線が看板の兵庫県代表東洋大姫路高校と対戦。朝8時開始予定が雨で1時間順延し、9時試合開始。そのため猛暑の中での対戦となりました。地元兵庫県の代表校との対戦ということで、甲子園球場はほぼ満員。大応援団の応援が響く中での対戦となりました。

学校名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
花巻東 (岩手)	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4
東洋大姫路 (兵庫)	1	0	1	0	2	3	0	1	X	8

花巻東の打線は、東洋大姫路の先発木下投手の140km台のストレートとチェンジアップに6回まで0点に抑えられ、終盤8回に赤間選手のタイムリー三塁打などで3点を返し、9回も代打千葉脩平選手が二塁打を放ったものの4対8で惜しくも敗れました。

敗れはしたものの終盤見せ場を作るなど岩手県勢の意地を見せた好試合でした。花巻東高校チームは、主

力の古城選手、赤間選手、萬谷投手など2年生レギュラーも多いので今後に期待したいです。

応援に参加の皆さま、猛暑の中、応援ありがとうございました。
(スポーツ部会・横手辰美)

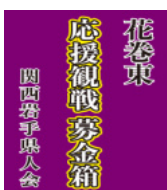


菊池所長や池田会長も応援！

県人会応援団

ー事務局よりー

智辯和歌山高校戦には23名が、東洋大姫路高校戦には36名の方が応援に駆けつけてくれました。花巻東高校への募金額合計は58,000円となり、後日花巻東校へ送金しました。ご協力感謝いたします。



高校野球 ～全国高校軟式野球大会～

専大北上高校準決勝で中京高校に惜敗

東東北を勝ち抜いた専大北上高校は2年ぶり8回目の出場となりました。1回戦は8月24日(日)南九州代表・鹿児島実業(3年ぶり11回目)と明石トカー球場で戦い、1-0で勝利。26日(火)姫路ウインク球場で西東北代表・能代高校と準々決勝を戦いました。能代高校は2年連続23回目の出場という強敵です。ピッチャーの宮森はボールを低めにコントロールし、散発3安打で3-0と零封し準決勝へと駒を進めました。

28日(木)の準決勝は明石トカー球場で、相手はこれまで3連覇している優勝候補筆頭の東海代表・中京高校(岐阜)でした。専大北上は背番号3番のサウスポー平投手が8回までヒット4本0点に抑える好投を見せたものの、中京のピッチャーも速球と低めの変化球で、同じ

くヒット4本の0点に抑えられました。9回表の専大北上は、得点圏に走者を進めるもタイムリーが出ず、9回裏の中京の攻撃となりました。先頭打者のライトフライを野手が走りながら一旦グラブに捉えたものの後逸し3塁打となり、続く打者がセンターオーバーのサヨナラヒットを打ち中京の勝ちとなりました。

中京はその後の決勝戦で3-2であべの翔学高校(大阪)を破り4連覇を達成しました。中京と互角に戦った専大北上は誇れるベスト4でした。
(事務局N)



準決勝戦後の選手たちの挨拶



平投手

その他の高校スポーツ

【野球・秋季東北地区大会決勝戦 10月17日】

岩手からは花巻東・一関学院・盛岡中央の3校が東北地区大会に進みました。一関学院は1回戦で敗退し盛岡中央は2回戦で敗退しましたが、花巻東は順当に勝ち進み、八戸学院光星との決勝戦となりました。花巻東は赤間-萬谷の継投で3-2で逃げ切り優勝し、春の甲子園切符をほぼ手にしました(選考委員会：1月30日)。

【ラグビー・県大会決勝戦 10月18日】

県大会の決勝戦は、シード校の対戦となり、盛岡工業が黒沢尻北を14-12の僅差で破り、2年連覇37回目の花園出場(12月21日開幕)を果たしました。

【駅伝・県予選会 10月16日】

男子の一関学院は、序盤から主導権を握り、7区のうち3区のみが2位とほぼトップをキープ。2年連続34回目の都大路出場を決めました。女子の花巻東は5区全てで区間賞を獲得する完璧な走りで、4年連続16回目の都大路出場となりました(男女とも12月21日開催)。

青年部会で～す！

みなさまこんにちは！青年部会の部長の澤口です！

急に寒くなってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

青年部会では月に一度飲み会をしまして、県人会会員の方はもちろん、会員でない方でも岩手にゆかりのある方と交流をしております。

9月の飲み会では、一関市出身の高橋碧唯さんが勤めているお初天神近くの焼き鳥屋さんで一次会をした後、そのすぐ近くにある「スナックもりおか」(小山田星子さんが経営・盛岡市出身・写真左端)で二次会をしました。そしてなんと当日は小山田さんの誕生日で、カラオケも大変盛り上がり、最高の誕生日になったと喜んでおられました。

会員の皆様で岩手の飲食店の情報がありましたらぜひお知らせください。

青年部会と題してはいますが、年齢制限等はなく、気持ち若い方でしたら誰でも参加歓迎ですので、ぜひ一緒に交流しましょう！

お気軽にお声かけ下さい！



このQRコードから青年部会グループLINEに参加できます！

二刀流の効果やいかに

表題を見て大谷翔平を連想した方には申し訳ないが、このエッセイの筆者、つまり私のことである。

大学講師と写真家という二つの肩書きで活動する私は、あるとき、この両方のキャリアを掛け合わせるという名案を思いついた。

大学では英語科目を担当しているのだが、小中高とは違って文部科学省による学習指導要領の縛りがない。つまり、使う教材は自由だ。そこで、英語で書かれた写真論の文章を学生に読ませることにした。構図、光線、被写体の選び方など、撮影技術に関する内容だ。

もっとも、私の狙いは別のところにある。すなわち、英語を読ませたフリをして、実のところ、自分の関心分野である写真の話がしたいのだ。

まったくの我田引水だが、講師が生き生きと講義するので学生からの抗議もない。むしろ、講師の目の輝きが学生らの目を輝かせている(ように見える)。

そこで、さらに気をよくして岩手の風景写真を紹介しながら、岩手の魅力について語ることにした。仕事場は関西の大学なので、学生は岩手のことをほとんど知らない。未知、未訪の地である。私の写真集に掲載した写真をスライドにして授業で紹介し、英語で解説する。あくまで英語を教えるフリをしつつ、話の力点

はさりげなく岩手の紹介に置く。

冬に雪で固められた田んぼのあとに、春にいちめん水が張られた様子を講義室のスクリーンに映すと、思わず歓声があがる。やはり、農村風景がもっとも新鮮なようだ。都会に住む学生には、さもありなん、だ。

毎年、6大学16クラス約400人を相手に講義を行うので、私から岩手の話を聞く学生は相当増えてゆく。中には、「花巻に行ってみたいという気持ちが高まりました」とか、もっと極端に「大学を卒業したら岩手に移住しようと思った」といった感想も寄せられる。

さらに踏み込んだ学生のコメントを紹介しよう。

「田んぼはただの風景ではなくて、地元の人々が汗を流して育てた命の源であり、その背景には、土を耕し、水を引き、雑草を取り除く日々の努力があるのだろう」(農学部1年)

「一番綺麗だなと思ったのは棚田に雪がかぶっているところです。あんなにきれいに自然と幾何が存在している場所は他にない」(工学部1年)

「こんなに寒そうで過酷な環境で育った大谷(翔平)が強くなるのも納得です」(経済学部1年)

やはり、二刀流効果は、間違いなさそうだ。



大谷翔平の故郷、奥州市の田んぼ (2012年12月26日 多賀谷真吾撮影)

▶ 関西宮沢賢治の会

本会は比叡山延暦寺の執り行う「宮沢賢治忌法要」への参列および本会の企画する小集会への参加を通じて、会員の賢治に対する関心・理解を深めること、および関西における賢治ファンの育成を目的とする。

▶ 関西アテルイ・モレの会

この会は、京都清水寺に建立した『北天の雄 阿弭流為・母禮之碑』をお守りし、アテルイとモレ等を慰霊・顕彰する法要を主催することを目的とする。

▶ 関西奥州の会

本会は会員相互の親睦をはかり、併せて岩手県奥州市の市政活動と連携を保ち郷土の発展に寄与することを目的とする。

〈会の目的は、会則から抜粋〉

関西岩手県人会のホームページのトップページには関連親睦団体として「関西宮沢賢治の会」「関西アテルイ・モレの会」「関西奥州の会」を掲載・リンクしています。事務局からのお知らせや県人会広場に行事やイベントの案内や報告などを投稿してきました。会員のなかにはこの3団体に複数所属されている方もいらっしゃいます。スマホの場合はQRコードから、パソコンの場合は県人会のホームページを開いて夫々の団体をご覧ください。



事務局掲示板

会員動静

【2025年11月末日現在】

＊総 数……………130名

・会 員……………117名 ・家族会員…………… 8名

・顧 問…………… 5名

＊6月以降の入退会者

・7月入会 三又雅文さん……………石鳥谷町出身

・退会者 柄本りつ子さん

2025年の実施および参加行事など

＊役員会・総会

＊1月22日(水)第1回役員会

＊1月26日(日)総会・創立70周年祝賀会 道頓堀ホテル
来賓9名招待者9名出席、会員32名参加

＊6月11日(水)第2回役員会

＊12月10日(水)第3回役員会

＊東日本大震災15回忌法要…3月11日(火)法善寺 池田会長をはじめ顧問など計6名参列

＊青年部会主催お花見会…3月30日(日)阪堺貸切電車 京都岩手県人会や近畿秋田県人会からの参加など31名参加

＊合同親睦お花見会…4月5日(土)京都聖護院光淳・中御殿
10名参加

＊京都岩手県人会総会・懇親会…5月24日(土)京都聖護院光淳
中御殿 池田会長及び菊地副会長出席

＊関西奥州の会総会・懇親会…6月21日(土)京都聖護院御殿
荘 池田会長出席

＊第16回京都清水寺で南部風鈴を愛でる会…6月30日(月)に
飾り付け2名参加 7月1日(火)法要・掛け初め式典4名参加
7月30日(水)風鈴片付け2名参加

＊第14回三県合同納涼ビアパーティ…7月19日(土)道頓堀ホ
テル 18名参加

＊第61回関西宮沢賢治の会法要(賢治93回忌)&記念講演会
9月21日(日)比叡山延暦寺 関西宮沢賢治の会会員他55名参
列 記念講演会には50名参加

＊第19回アテルイ・モレ慰霊祭(伝アテルイ・モレ塚保存会)
9月23日(火)枚方市牧野公園 県人会所属は4名参列

＊第12回泉大津さんま祭り…10月26日(日)池上曽根史跡公園
池田会長が開会式に出席

＊第32回阿弭流為・母禮之碑法要(関西アテルイ・モレの会)

11月8日(土)京都清水寺 県人会所属は16名参加

＊関西宮城県人会総会・懇親会

11月8日(土)中国料理大成閣 澤口副会長出席

＊一祐会関西支部総会・懇親会(岩手大学理工学部同窓会)…

11月15日(土)道頓堀ホテル 菊地副会長出席

＊三県人会役員合同忘年会…12月3日(水)大阪キャッスルホ
テル 池田会長他5名出席

〈高校野球〉

＊春の甲子園・花巻東高校…3月17日(月)宿舎に激励訪問

3月18日(火)米子松陰戦 23日(日)二松学舎大付属戦 26日
(水)健大高崎戦

＊夏の甲子園・花巻東高校…8月5日(火)宿舎に激励訪問

8日(金)智辯和歌山戦 15日(金)東洋大姫路戦

＊軟式野球全国大会・専大北上高校…8月24日(日)鹿児島実
業戦 28日(木)中京戦

〈会報イーハトーブ発行〉

57号(3月)、58号(6月)、59号(12月)を発行

今後の予定

＊第105回全国高校ラグビー選手権大会・盛岡工業高校

12月27日(土)～1月7日(水)花園ラグビー場

＊第34回全日本高校女子サッカー選手権大会・専大北上高校

12月29日(月)～1月11日(日)兵庫県内5会場で開催

＊男子第76回・女子第37回全国高等学校駅伝競走大会

男子：一関学院高校・女子：花巻東高校

12月21日(日)たけびしスタジアム京都スタート・フィニッ
シュ

＊皇后杯第44回全国都道府県対抗女子駅伝競争大会

2026年1月11日(日)たけびしスタジアム京都スタート・
フィニッシュ

＊総会・新春懇親会…2026年1月25日(日)大阪キャッスルホ
テル

編集後記

今年の2月末に発生した大船渡市大規模林野火災の義援金は最終的に291,779円となり、市の災害義援金口座に送金しました。あらためてご協力感謝します。

さて、イーハトーブは来年3月には60回目の発行となります。60回発行を記念して何か特集記事をと考えていますが、期待せずお待ちください!?

(編集子N)